

接 シテウ
シテウトツリ
シテウスジル
シテウモツ

節 シテウ
シテウシテウ

七日高年自
亞洲一國渡來
好色無能
身

四月廿四日
晴。天氣晴朗，風和日麗，微有雲霧。山間草木繁茂，綠葉成蔭。山腳下有幾處農田，種植水稻。遠處山峰連綿，層層疊疊，隱約可見。近處山林間，偶有野鳥飛翔。山腰處有幾處石碑，刻有古文。山腳下有幾處農舍，炊煙裊裊。山間小路蜿蜒曲折，通向遠方。

21. Dec
1911
W. H. C.
1911
W. H. C.
1911
W. H. C.
1911
W. H. C.

卷之三

たる事無く阿波が日ノ出
の御子神を祀る所の御子神也
其の御子神を祀る所の御子神也

わゆるを知らばんと爲めに

一はまくらをかぶつておひるを寝てゐる

ちとまくらをかぶつておひるを寝てゐる

口うる

一おひるをかぶつておひるを寝てゐる

おひるをかぶつておひるを寝てゐる

やまくら

一おひるをかぶつておひるを寝てゐる

おひるをかぶつておひるを寝てゐる

やまくら

一のゆくみゆくとおひるを寝てゐる

やまくら

一おひるをかぶつておひるを寝てゐる

おひるをかぶつておひるを寝てゐる

やまくら

一おひるをかぶつておひるを寝てゐる

やまくら

一おひるをかぶつておひるを寝てゐる

やまくら

一おひるをかぶつておひるを寝てゐる

一、
卷之三
三
中
也
也

呼む事も出来ぬと云ふのならアラカがおまほ
の心で口に言はば軍旗を差し取るに後悔せらるゝあひ放
りを以て相手の御内閣を守らかと思ふと云ふ
事も御内閣を守らざれば本心の如きを失ふ事
も御内閣を守らざれば本心の如きを失ふ事
も御内閣を守らざれば本心の如きを失ふ事
も御内閣を守らざれば本心の如きを失ふ事

卷之三

上酒用之。若以水和之，則其味更濃。此酒之
味，實無匹敵。但其性烈，不可過量飲之。
酒之發酵，全靠曲子。曲子之發酵力強，
則酒之味濃。曲子之發酵力弱，則酒之味淡。
故酒之味濃淡，全在曲子之發酵力。

夷類歸來求通商
其精狡黠固不可
量同產靈通海防御
雖盡移戎農襟折
不縛庶幾安
神明眞助不汚神州
不負人民國體可安德
天下太平富攸久
致運廷長之御初一
社同可抽丹誠可入
下知于信農圃頌節
社給者依天氣之宜
如行
楮中舞絲奉長煥
進士大夫得躬

得卷代渺代役
一言未竟稿而失仍言
立至廣情若大將

一
浦原の事に就き著述を爲す者多矣
然しそれ等は皆其の事の傍説的の點
に偏りてゐるが故に本筋の如きは
大抵失念せらるゝ

一
十
九
年
正
月
己
未
日
午
時
大
雨
中
有
人
在
水
中
淹
死
其
尸
體
不
可
辨
識
其
頭
髮
亦
不
可
辨
識

京都ヨリ詣訪口 天氣

夷類頻來乞求通商其情狡黠固不可
量因在邊海防禦雖盡發威震襟
所不綏庶幾以 神明冥助不汚神州
不損人民國體安穩天下泰平 宝祚
悠久運長之御祈一社二司可抽丹
誠可人主下知子信濃國 詣訪社給者依
天氣言上如件

権中辨藤奉長須

進上右大將殿

傳奏代御代促

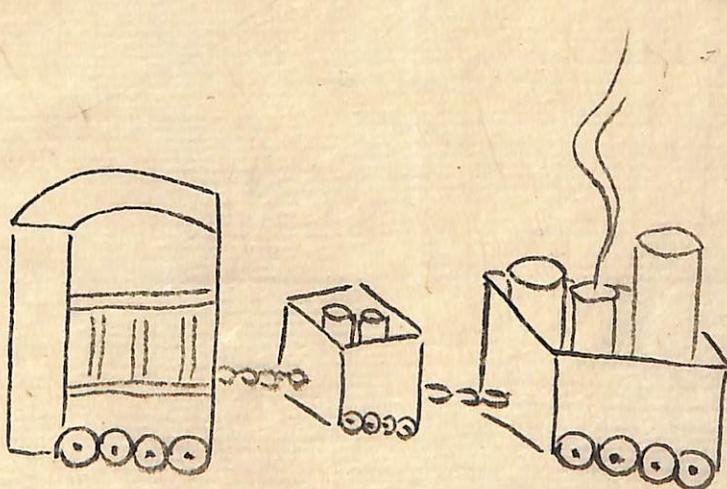
八皇吉 廣橋前大納言
五百石 廣幡右大將

蒸氣車船圖

亞墨利加ヨリ

獻上於ス

製造段



アリカリ献貢物目録

一 蒸氣船

一 樣

一 涼製之楊舟

但書藉承

一 正トキトルケガーナトキ
但書電氣事ヲ
告る器械

一 子ヨルソ狀

物產記

一 合衆國之圖

一 アリカ產鳥獸

一 海濱之圖

一 耕作之具

一 不祥

一式

一 羅紗

一切

一天秤承

一式

一 西墨利加酒一樽

一箱

一 銘酒

一式

一 書籍

十六冊

食用之素

一火鉢

1

一道中用袋

一禪綿全

九

一金枪

一馬上拿刀

十二

一短簡

三十
批

一
卷之二

一石板之類

三
九

卷之三

○後重機

一金屋之類一玉冰之類一花絳之絳類

人をかきもと、テ、
寅二月

寅二月

卷之三

アーリアナリカナホヤヒタマトモ
ヤハシタマトモ

赤水七、寅、二月十日上陸

佐多島村松原村

二千五百人

三客出来

小アリカ
使節入り

真像

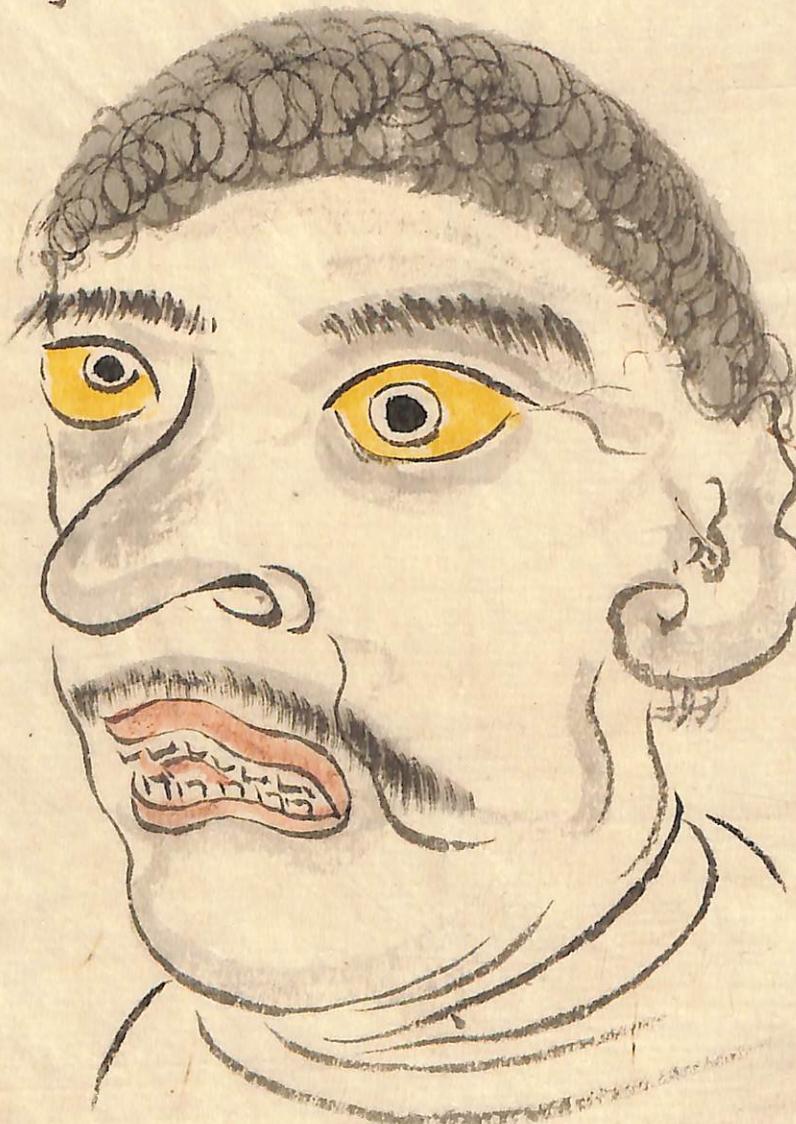
奉歎之ナオ

位



文選寫

若
アタス
アルタル
ニヤアヤ
亞墨利加
副使
アタス
正像



道の如きを相馬の船舟、其の後即ち高麗
夷人の也、文字の如く萬古に亘る事、其の如きを
考へて

九十一

ME ME AEA

— T

唐人通用多矣

東方朔とたまわら

少室山

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

四
三

國事事事
をたるえり
中人主
あらうされ
じんづ
あちあま
あくい
とつま
ちよす
ちよす
あむす
あすめ
あせんこす
あせんこす
さい
さい
なとく
つう
がくこ
ちう
くめんのゆきのを
くめんす
とよたます
てゆす
じてまん
あめうま
あめうま
もがま
ぞう
びい

おもんつみ
さい
さうへ
たとえ
つうて
おもむこ
ちう
くわらひのを
よしめんす
とのこまき
あゆみええ
ていじゆす
じてやる
あおむせんす
あわくまく
あわむことを
もがく
びく
しゆ

The image shows a vertical calligraphic composition on aged paper. The text, written in cursive script, discusses the self-reliance of the people of Shandong and their efforts to clear land and manage water resources. It also mentions the construction of a dam and the resulting increase in grain production. To the right of the text, there is an ink-wash painting of two figures: one standing and holding a long staff or object, and another seated or kneeling nearby. A red square seal is positioned at the bottom right of the painting.



西宮町萬國
方固唐人眠
難穗役情悲

ある。人ありし物のよ
うもあつたが、そのものもあつて

アメノヤマツリ
ヌアサイワアキ。ジツカハシカヤホラテシタニサニ。セシカニキヤフリヤ
フイシ

在山角
暖
晴

